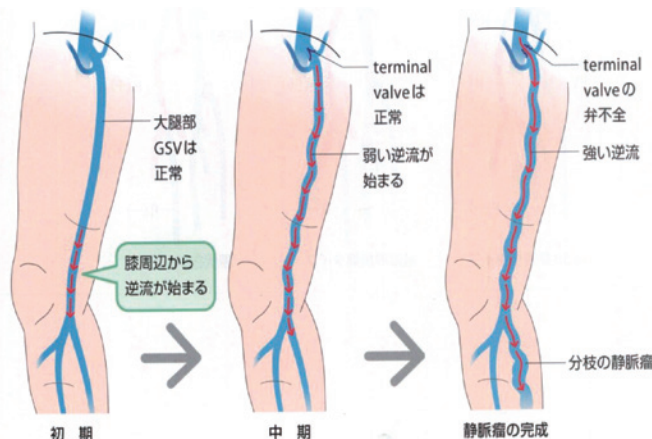




富山県で最初に下肢静脈瘤血管内レーザー治療（レーザー焼灼術）を導入しました

心臓血管外科 小杉 郁子

ふくらはぎや太ももにコブのように静脈が膨れているのは下肢静脈瘤（しじょうみぶ）という病気です。過去の広報でもお伝えしたとおり、原因は妊娠や立ち仕事、力仕事に伴う高い腹圧や静脈圧の上昇にあり、この圧力によって足の静脈の壁が伸びたり、弁が緩んだりすることで血液が足の方に逆流し、静脈が風船のように膨れるようになります（図1）。主な症状は、静脈の膨れ、足のしびれ、むくみ、重だるさや疲れ、こむら返り（からすがい）、かゆみ（軽い皮膚炎）、痛



【図1】大伏在静脈不全の進行

み（血栓が詰まったりして痛い）などで、さらにひどい皮膚炎を起こすと茶色く皮膚の変色をおこしたり潰瘍になったりすることもあります。

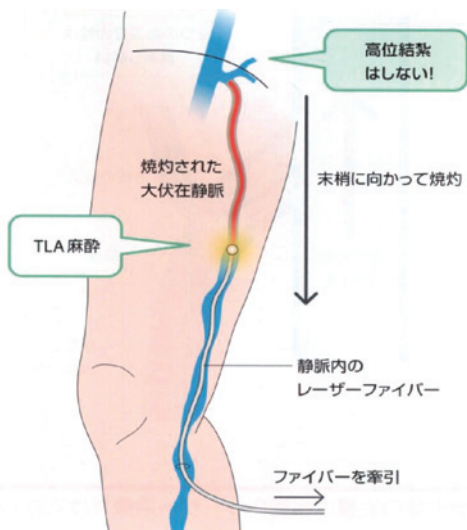
治療は？

静脈弁が緩んで発生する病気なので、内服では静脈瘤は消えません。かゆみや痛み、皮膚の変色、潰瘍などがある方は静脈瘤を治療したほうが早く皮膚炎が落ち着くと言われています。治療法は平成23年1月から保険適応となった血管内レーザー治療（レーザー焼灼術）も含め4つあります。①主流である抜去切除術、②レーザー焼灼術、③硬化療法（薬

で瘤を固める方法）、④弾性ストッキング着用（対症療法）です。

レーザー焼灼術とは？

抜去切除術では足の付け根に3cmくらいの切開創を作り静脈瘤の原因ルートである大伏在静脈にワイヤーを入れて抜いてしまう方法です。それに対しレーザー焼灼術は超音波で膝付近の大伏在静脈を探して点滴針を刺して、先端からレーザーがでる光ファイバーを入れて静脈の内側から熱で焼いてつぶしてしまう方法（図2）で、カテーテルを用いた治療です。皮膚科や形成外科で行うシミや脱毛の治療のように皮膚の表面からレーザーをあてる治療とは異なり、膨れた静脈瘤の皮膚の上からレーザーをあてて瘤をつぶすのでは



【図2】血管内レーザー治療

ありません。当院は平成24年夏に実施施設認定を取得し、25年1月に富山県初の導入病院となりました。

治療の前に

それぞれの患者さんで静脈瘤の原因力所が異なるため、正しく治療をするためには超音波検査が必須です。原因力所や静脈瘤の程度や形状がわかるので、そこで初めてレーザー焼灼術が可能なのか、通常通りの抜去切除術が適切なかが判断できます。また、重篤な心疾患、閉塞性動脈硬化症、膠原病などの既往症がある患者さんにはレーザー焼灼術は禁忌とされています。実際、レーザー焼灼術が可能と判断されるのは約4割なので、まずはしっかりと診断と説明を受けることが肝心です。



病院敷地内禁煙をお願いします

病院には気管支ぜんそく、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、妊婦、赤ちゃんを抱いたお母さんも通っています。

～あなたならきっとできる～

★禁煙開始方法

思い立ったら吉日、いまから禁煙！

市立砺波総合病院 禁煙対策委員会